

第1回松本市特別職報酬等審議会会議録

- 1 開催日時
平成29年8月29日（火） 午後2時～3時
- 2 開催場所
松本市役所 本庁舎3階 第一応接室
- 3 出席委員
8名
内川小百合委員、神澤鋭二委員、佐藤幸司委員、瀧澤和子委員
平林大喬委員、松澤幹夫委員、山添昌彦委員、吉澤由紀子委員
- 4 欠席委員
2名
出井健二委員、井上保委員
- 5 事務局出席者
菅谷昭市長、丸山貴史総務部長、村山修職員課長
小西敏章行政管理課法制担当課長、村田誠司職員課課長補佐
上條竜史職員課主査
- 6 傍聴者
なし
- 7 報道機関
信濃毎日新聞、毎日新聞、中日新聞、市民タイムス
- 8 議題及び結果の概要
 - (1) 市長あいさつ、各委員・事務局職員紹介
 - (2) 会長選出
平林委員を会長に選出

(3) 会長代理指名

会長が瀧澤委員を会長代理に指名

(4) 諮問

市長から次のとおり諮問された。

「議員報酬及び政務活動費の額並びに市長、副市長及び教育長の給料の額に関し、改定の適否及び適正な額について、松本市特別職報酬等審議会条例第2条の規定により、貴審議会の意見を求めます。」

(5) 審議会日程

審議会日程案を事務局が説明し、了承。

ア 第2回 9月25日(月)午後 2時～

報酬等の水準等の検討、答申の方向性の決定、答申内容の検討

イ 第3回 10月27日(金)午後 2時～

答申内容の決定

(6) 特別職報酬等の概要説明

ア 松本市特別職報酬等の改定経過

イ 県内19市及び同規模都市との比較(報酬等の水準、財政状況等)

(7) 審議

(会長) 事務局から松本市と県内19市、同規模都市の状況について資料説明があったが、意見等があればいただきたい。

(委員) 改定経過について、平成10年から14年までは審議会の開催をしていないが、市長等の報酬に改定はなかったということか。

(事務局) 審議会の開催時期については、平成9年7月に開催して以後、人事院勧告による改定率が低かったという状況から、この間は審議会を開催しなかった。平成16年から19年の間についても同様。

近年は国家公務員の給与の変動が少なかったということもあり、3年に1度審議会を開催する状況となっている。

(委員) 3年ごとの審議会では、例えば「引上げ」、「引下げ」、「維持」の中で何が適正であるかを審議し、給与の変動が大きい、少ないにかかわらず審議会を開催するということか。

(事務局) 近年の人事院勧告による変動が少ないということもあるが、同規模都市との水準比較をするということもあり、3年ごとに開催している。

(委員) 同規模都市の報酬額に関する資料で減額措置前の額となっている都市が17市あるということだが、現在も17市全部が減額されているというこ

とでよいか。

(事務局) 自治体それぞれの条例で報酬額は決められているが、この17市については、率を定めて報酬の減額している。

(委員) 逆に増額措置というところはあるのか。

(事務局) あくまで条例で報酬額が決められているので増額措置はないが、対象の17市は減額する条例を作り、報酬を減額している。

今回の資料は、減額前の額で報酬の水準を比較するものとなっている。

(委員) 43市中17市というと、割合的には多くの都市が減額措置をとっているという認識でよいか。

(事務局) 自治体ごとに財政状況等の様々な事情があり、減額措置をとっている。

(委員) 松本市の議員数は31名ということだが、同規模都市と比べると議員数の水準はどのあたりに位置しているのか。

(事務局) 全国的にみると、人口20万から30万の都市の定数は、26人から多いところで38人となっており、松本市の議員数31名は中よりも下に位置している。

(委員) 政務活動費について、長野市と比べると額に大きな開きがあるようだが何か理由があるのか。

(事務局) 長野市の詳細な状況については承知していないが、額を比較すると松本市他17市は少ない金額となっている。

松本市では条例により25万円と定められている。議会側からは平成16年に増額要望をいただいているが、その時には経済状況等を踏まえ据置きとした経過がある。それ以後、増額の要望はない。

(事務局) 次回は本日の審議内容を踏まえて、報酬等の水準の検討と答申の方向性の決定、答申内容の検討をしていただきたい。